

有楽街に、
新しい風は
吹くか。

ヨーロッパと鹿児島から学ぶ、人をつなぐ場所

「有楽街ガーデン」

へようこそ。

もし有楽街にオープンカフェが立ち並び、地域の人や来街者も商店も一緒になって楽しめる場ができれば、街はどう変わっていくだろう。そんな空想を広げるような浜松まちなかにぎわい協議会の取り組みと全国的にも有名な鹿児島の先進事例を紹介します。鹿児島の商業施設マルヤガーデンズの“ガーデン”の取り組みを参考にして発足した空き室利用プロジェクト「まちなかガーデンズ 01」。鹿児島でも浜松でも、商業施設の中に市民活動が入り込む新しいまちのあり方が模索されています。オープンカフェから人の会話やにぎわいが染み出すように、街全体が市民のガーデン(=庭)のように感じられる新しい街の姿とは。その可能性を考えます。

有楽街に、新しい風は吹くか。

まちなかガーデンズ対談

那須田 摩美

まちなかガーデンズ支配人

伊藤 規晃

浜松まちなかにぎわい協議会

まちなかガーデンズとは

2012年10月〜12月まで、浜松まちなかにぎわい協議会によって運営された有楽街のコミュニティスペース。期間中、日替わりのイベントスペースとして多くの主体が、ギャラリイやレクチャースペースとして利用した。

まちなかガーデンズ 誕生の経緯

—— 本日は「まちなかガーデンズ01」（以下「ガーデンズ」）に携わった伊藤規晃さん、那須田摩美さんをお招きして、ガーデンズを運営してみた経験や、空きテナント活用、まちなかについて幅広く伺えればと思います。まず、「ガーデンズ」を始めた経緯を教えてください。

伊藤 24年度に空き店舗活用用のトライアルにあたり、鹿児島島のマルヤガーデンズという老舗百貨店を再生した商業施設の事例を見つけたんです。昨年6月に視察した時に、市民活動をストリートに誘致する目的で同じようにやってみようとなった。同じタイミングで、那須田さんというとても



ルチャール教室など、多様な活動が生まれ、述べ1500人の来場者、15主体が利用してくれました。

那須田 企画としては**ポルノ学**（ワインとチーズとロマンポルノ）が面白かったです。公営の公民館ではなかなかできない企画です。

「浜松には**文化的刺激的が足りない**」と参加した女性が嘆いていました。まちの足りていない部分を、空き店舗を活用して補完することは必要だと思います。

伊藤 利用者の方だけではなく、近くのお店の人にも珈琲を飲みに来てくれました。

ンカフェをまずは実験でやってみるのも面白いですよ。実は、試しにガーデンテーブルセットをそっと置いてみたら意外と景観に合っていた。昼間の顔としては**ヨーロツパみたい**なまちなみを意識したいですね。



（もちろんすぐ撤去しました）

那須田 電柱がなく、高さが揃った建物の景観も綺麗です。笠井屋ビルの5Fからまちを眺めたときには、**まるでパリのよう**でした。

これからのまちの使い方

—— 今回のような拠点整備事業は、**大型SSCとの差別化**という意味でも可能性を感じます。そういった新しいまちの使い方は今後より重要になるのではないのでしょうか。

那須田 今、**まちなかの歴史**を調べ

ポルノ学の企画も「ガーデンズ」での**井戸端会議**がきっかけでした。

鹿児島、マルヤガーデンズの視察から得たもの

—— マルヤガーデンズの視察はどのように生かされたのでしょうか。

伊藤 もともと、**コミュニティスペース**としての機能と**市民活動のステージ**という機能の両立を目指していたのですが、ガーデンズ単体だけだとまちなか魅力が伝わらなさと感じていました。その時に、マルヤガーデンズが施設全体の価値向上を図るために、ガーデンズを運営しているという理論は、非常に役立ちました。まさしく、ストリート全体でエリア全体を考えていくべきだと実感しました。もう一つ、マルヤガーデンズのコーディネートもそうだと思いますが、運営する人のキャラが重要だということ。那須田さんはいろいろな人を巻き込んで、まるでタウンマネージャーのようでした（笑）。

と感じている人は多いのではないのでしょうか？ やってみたくいけど躊躇している人の背中を押すということ、皆で借りる仕組みを作った方が試しやすいし借りやすい。

今の空室は、現実路線として時間や場所を**シェア**して借りる仕組みを創ってリスクを下げて、**新しいチャレンジ**ができる実験場としての価値があると思っています。

那須田 空き店舗のままで、人が出入りしない空気はどうでしょう。空き室が短期的にでも埋まっていけば全体の価値も上がっていくと思います。

伊藤 通常はテナントとして一人の人が借り上げるのですが、違う主体が連続して利用する「ガーデンズ」の取り組みは不動産会社ではやらないことだと思います。商店街組織がこの取組みはエリア向上に効果があると認識し、商店街組織全体でガーデンズを支援する形になると良いなあと思います。

この取り組みの継続が、きつと良い意味で**街の新陳代謝**に繋がる…。

那須田 まちなかで起業された方にヒアリングをする

有楽街という場所

—— 「ガーデンズ」は浜松のまちなかの代表的な顔の一つである有楽街の立地でした。有楽街について教えてください。

那須田 **有楽街**は朝から夜中までいろいろな顔を持っています。昼間は物販や飲食、夜は飲み屋街にガラッと様相が変わります。昼のお店で印象的だったのは、ガーデンズの隣にあるハンドバッグの笠井屋さんには、中高年のおしゃれなご婦人たちが、大阪、東京からもいらしていました。購入した鞆をリメイクしてくれるのも魅力のようでした。

伊藤 有楽街の多様な専門店と「ガーデンズ」を含め全体で一つの施設のような捉え方ができればもつと可能性が広がるかなと。そうした時に**まちなかの強み**を生かすこと、例えば、平成21年に策定された有楽街ビジョンでも提案されているように、**オーブ**

と「**高校生時代から、まちなかがすごく好きだった**」という方が多くいました。物件と人を見渡せるシステムがあるといいと思います。今回は一日貸しでしたが、時間で割って24時間使えれば、夜から朝も面白いことができたように思います。それから、2年くらいの長いスパンで、実験をさせていた良かったです。

人のつながりとシビックプライドは本当に大事です。朝、店前の花壇がつぶれていることだって見方を変えれば、前の晩そんなに騒いだのかという、まちなか特有の出来事です。翌朝は、花壇やタバコの吸い殻を片付けている商店の方々を見ました。みなさんで、**まちを守り、愛している**と感じ心があたまりました。

さまざまな年代、職種の方に、まちなかに遊びに来てほしいですね。テナナを高くして、まちを歩けば郊外とは違った魅力が発見できます。

（聞き手…にぎわい協議会河合）

伊藤 規晃

いとう・のりあき／浜松市出身。2010年より浜松商工会議所から浜松まちなかにぎわい協議会へ出向。



有楽街に、
新しい風は
吹くか。

話題沸騰!!

マルヤガーデンズを大解剖



マルヤガーデンズとは？

鹿児島市中心市街地に立地する複合商業施設。丸屋デパートを経て三越鹿児島店として運営されていたが2009年に三越が撤退。翌年、コミュニティを取り込んだ画期的な商業施設「マルヤガーデンズ」としてリニューアルした。館内にはテナントだけでなく「ガーデン」と呼ばれるコミュニティスペースが用意され、趣味やライフスタイルに関係する多くのイベントを開催し、賑わいを創出している。コミュニティデザイナーの山崎亮氏(Studio C)が関わったこともあり全国的に話題を呼んでいる。

おしえて！マルヤガーデンズ

マルヤガーデンズコーディネーター
市村良平氏インタビュー(聞き手：アンテナ社)



市村良平

いちむら・りょうへい/1986年鳥根県益田市出身。鹿児島大学大学院建築学専攻を修了後、2011年4月からマルヤガーデンズに勤務。

Q まず、マルヤガーデンズ発足の経緯を聞かせてください。

丸屋本社が母体になっていてのですが、1892年に創業し今年で120周年になります。120年前に呉服屋としてスタートし、1961年に丸屋デパートを開業しました。その後三越との業務提携により、三越鹿児島店として運営されてきました。しかし三越が撤退することになり、玉川恵社長が商業施設として再スタートしようという決断をしてマルヤガーデンズを作ろうというプロジェクトが立ち上がりました。

Q では、マルヤガーデンズ最大の特徴であるガーデンの役割をも少し詳しく教えてください。

いわゆるコミュニティスペースですが、地域の公民館とは少し違います。商業施設の中に入っていることが背景にあるので、接客の仕方、見せ方といった部分で公民館よりも周囲を気にする必要があります。利用状況に関しては現在、累計で約200団体、イベント開催数は1200件程度という実績になっています。主要なところで稼働率は7割、土日はだいたい埋まっていますね。

Q 商業施設全体としての手応えはいかがでしょう。



ガーデンの様子①

Q 売りに関しては？

売上は今のところ右肩上がりです。

Q 市村さんが務めるガーデンコーディネーターというポストの仕事内容を具体的にもう少し教えてください。

全体を把握しながら、「ガーデン」のスケジュールを建てるのが主な仕事です。月に20〜30の団体とやりとりしていますね。今は

ここ数年、売場づくりを強化しており当初各フロアにあったガーデンも事業性の高いテナントスペースに場所を譲る形で移動、縮小があったりと、ガーデンの形態を商業価値に合わせて柔軟に変化させています。商業施設として、お客様が飽きないように新陳代謝をしないとけない部分もありますから。



ガーデンの様子②

Q 「ガーデン」の良さはどういった部分にありますか。

コミュニティスペースだけでは有効性はあまりなくて、あくまでも売場とコミュニティスペースの相乗効果こそが重要だと感じますね。

Q 面白いコミュニティはどういった分野に多いのでしょうか。

アート系、デザイン系は面白いです。モノを作っている人が結構いて、クラフト系の人たちもクリエイティブで面白く、マ

パレンタインの時期でその関連のイベントをやっていて、女性が喜びそうなアートイベント、チョコと相性がいい物販、ワークショップを入れていきます。それらを俯瞰して見るのが一つの役割になっています。

ニアックなコンテンツもあります。まちなかガーデンズのポルノの企画なんかもそうですが、マニアックな企画はコンテンツとして面白いです。

Q これからの地方都市、中心市街地の役割について、郊外型のSSCとの関係も含めあらゆるエリアと違いを出していく必要があると思うのですが、市街地の価値や課題はどういう部分にあるのか、お考えはありますか。

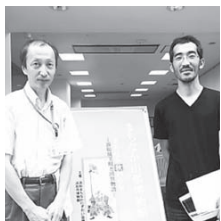
いかに付加価値をつけるかだと思います。コミュニティに「ガーデン」を利用して頂くことで得られる付加価値は、知識などころじゃないかなと感じています。1000円の商品を買った買うのではなく、1000円に加えて知識とつながりがついてくることが付加価値かなと。やはり中心市街地の人たちは人情味があったり、ノリがよくて、そういう部分は付加価値をつける意味で重要なのかなと。

(平成25年7月9日 浜松鹿児島をスカイプで結びインタビュー収録)
写真提供 マルヤガーデンズ

浜松へ輸入して...



開催期間 / 平成24年10月12月



まちなか出張博物館
浜松市博物館によるまちなか出張展示会。約400名来場。

まちなか秋の史学
太田博物館長による戦国時代当時の浜松についてを学ぶレクチャー。約150名来場。



静大サイエンスカフェ in 浜松
『放射線をはかるー最新技術で身近になった放射線測定、でも難しい?ー』約30名来場。

ルネサンス書道展
ルネサンスデザインアカデミーの学生さんたちによる書道展。約200名来場。



まちゼミ会議
まちゼミ実行委員会会議。約20名来場。

チャレンジショップ
浜松デザインカレッジの生徒がセレクトショップ「Lovy's [SHELLY]」を出店。約100名来場。



浜松まちなか博覧会
まちなかの徳川家にゆかりのある地を巡り「家康公天下獲り御膳」を堪能。約15名参加。

抹茶カフェ
茶道家による一日限りの抹茶カフェ。約30名来場。



ワインとチーズとロマンポルノ
シネマイーラの榎本館長によるロマンポルノ学のレクチャー。約20名来場。

横山豊蘭会書道展
横山豊蘭氏の門下生による作品展。150名来場。

